

## 1804年象潟地震に関するシンポジウムにおいて講演を行いました（2019/11/29, 30）

テーマ：1804年象潟地震，津波，歴史地震，社会貢献

会場：秋田大学手形キャンパス（秋田県秋田市），にかほ市総合福祉交流センター（秋田県にかほ市）

URL：<https://www.city.nikaho.akita.jp/life/detail.html?id=3131>

2019年11月29日および30日において，秋田キャンパス手形キャンパス，にかほ市総合福祉交流センターにおいて，1804年に発生した象潟地震に関するシンポジウムを行いました（主催：国立研究開発法人 海洋研究開発機構，科研費：JP16H03146）。かつての景勝地であった象潟は，1804年に発生した象潟地震によって，隆起を受けて消失しました。また，この象潟地震による津波と強震動は，多くの被害を発生させたことが分かっています。この象潟地震の震源像を明らかにするために学際的な研究体制で取り組み，得られた成果を基にシンポジウムを行いました。講演では，象潟地震前後に描かれた古象潟湖の絵図の比較，由利郡関村における地震被害の詳細，さらに象潟地震による地殻変動の詳細について，当研究所の安田容子助教と蝦名裕一准教授（人間・社会対応研究部門），岡田真介助教（災害理学研究部門）がそれぞれ発表しました。また，これら以外にも，内陸地震における地震死者数の分布や地震波のシミュレーション，さらには象潟地震による津波に関する研究報告もあり，さまざまな分野から，象潟地震に関する研究報告が行われました。秋田大学では学生を含め約75名の参加があり，にかほ市総合福祉交流センターでは約40名の参加がありました。



安田助教による講演の様子



蝦名准教授による講演の様子



岡田助教による講演の様子



会場の様子

文責：岡田真介（災害理学研究部門）

蝦名裕一、安田容子（人間・社会対応研究部門）